

利賀っ子だより



R4. 9. 20

○ 恵まれた学習環境の中で その2

利賀小学校では、年に数回「ロンレー子ども村」での自然体験活動を実施しています。

「ロンレー子ども村」は、昭和53年に子供たちにもっと豊かに自然体験活動をさせてやりたいという教員や保護者、地域の方々の願いから、森を開墾して遊び場を作ったのが始まりです。校長室には、「ゆとりと充実をめざす」という当時の資料が大切に残されています。当時の場所から移転してはいますが、子供たちの自主性や創造性を育む場としての位置付けは今も変わりありません。

先日は、「ロンレー子ども村 秋祭り」ということで、朝から一日ここで過ごしました。

午前中は、グループに分かれて家づくりを行いました。この活動は、7月末に武蔵野市の児童が利賀村を訪問した際に行う予定でしたが、あいにくの天気です途中で中止になりました。ですから、できあがりの家のイメージは各自の頭の中に入っていました。しかし、いざ活動を進めていくとなかなか思い通りにはいきません。

あるグループは、柱を立てた間にロープを張り巡らし、そこに布やブルーシートをかけて屋根と壁にしようと計画していました。



丈夫な家になりたいという思いから直径 10 cm ぐらいの太い丸太を選んだのはよかったのですが、丸太を自立させるのに一苦労。6年生のリーダーが「ここは掘って（丸太の根元を）埋めるしかない！」とスコップで穴を掘り始めました。草の根がはびこっている上、石がたくさんある地面は手強く、スコップを鍬に替えたり、脚立に乗ってかけやで上から打ちつけてみたりもしましたが、なかなか丸太は深く入りません。

そのうち、グループの一人が資材小屋から杭を見付け、杭と丸太を縛り付けるという方法にたどり着きました。なんとか柱が立った後も柱の間を巡らす

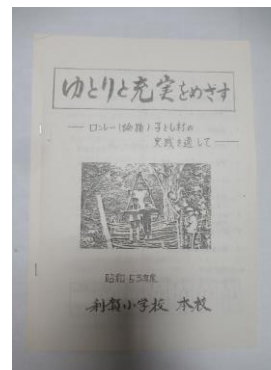
ロープがピンと張らない、ロープに布をかけると重みでロープが下がったり、柱が傾いたり次々と難題にぶつかっていました。

それでも子供たちは、諦めることなく、その都度、「これ使ってみようか。」「こっち持って、自分はここ留めるから。」

「ここまで、1時間ほどでできたから、時間内になんとかなる。」など、協力したり、試行錯誤を繰り返したり、先を見通したりしながら、学年に応じた役割を分担し、汗だくになって活動していました。その姿は、まさしく今年度の重点目標「挑戦」に通じるものだと思います。

弁当給食をいただいた後は、各グループの作品を見て回り、互いの工夫やがんばりをたたえ合ったり、春に保護者の方々と一緒に造った遊具で遊んだり、思う存分「ロンレー子ども村」での活動を楽しみました。

先輩方から代々受け継がれている大切な場所で、ダイナミックな活動ができたことで、利賀っ子の仲が一層深まりました。自慢できるすてきな教育環境です。



(高田 公美)